

～データ分析を用いて強さの秘訣に迫る～

# ロアッソ熊本躍進の秘訣

熊本県立宇土高等学校

## 要旨

ロアッソ熊本の過去三年間の得点の特徴を比較すると今シーズンはクロスからの得点が多いことが分かった。守備でボールを奪い攻撃回数を増やして敵陣の深いところからのクロスが有効になると考えた。

## 1. 目的

今シーズンロアッソ熊本はj2復帰1年目にして22チーム中4位でシーズンを終了した。今はJ1参入プレーオフの真っ只中で今週日曜日に行われる一戦で勝利するとJ1に昇格することができる。そんな躍進の裏には何かあるのかデータを用いて研究したいと思ったため。

## 2. 方法

### データ分析①:ロアッソ熊本の得点パターンを見つける

検証方法 2019~22年のロアッソ熊本の得点している場面パターン化し、その割合を調査する。

### データ分析②:得点数に関わるチームデータを発見する

検証方法① 2022年のj2リーグ22チームのデータを用い、得点数を目的変数として重回帰分析を行いより良いモデル構築を行った。  
検証方法② 5つの説明変数各項目と平均との差をグラフにして、ロアッソ熊本を分析した。

### 解析① 得点の起点となったクロスを上上げる位置を解析

検証方法 22年クロスを起点とした得点19パターンをデータ収集し、クロスの上となる位置を析出した。

### 解析② 守備で相手からボールを奪取してから、守備とパスとの関係を解析

クロスを上上げる前にボールを奪ってからパスを繋ぐことで、相手のマークを外すことができ効果的なクロスが挙げられると考えた。  
検証方法 解析①と同じ18パターンを用いてクロスが上がる前の状況を分析し相手守備のマークが外れているかどうか調べる  
\*マークにつかれている状態を守備側の人がパスをカットできることと相手と同一視野で見れることと定義した。

## 3. 結果

### データ分析①

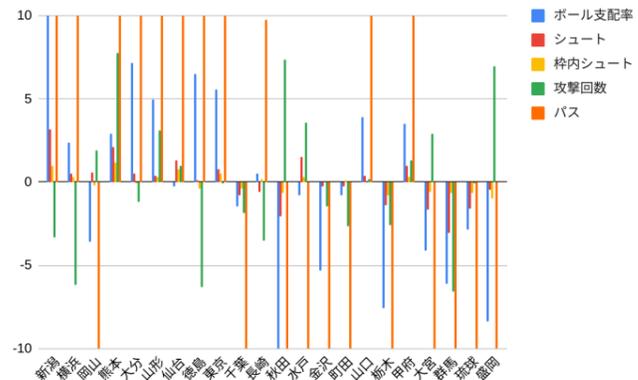
結果:22年はクロスが最も多かった。

	クロス	セットプレー	こぼれ球	ショートパス	スルーパス	pk	その他
2019	20.0%	22.2%	15.6%	6.70%	6.70%	8.90%	0.00%
2020	23.2%	35.7%	12.5%	25.0%	3.60%	1.80%	3.60%
2021	10.3%	25.6%	17.9%	15.4%	10.3%	10.3%	7.70%
2022	28.6%	20.4%	8.20%	20.4%	6.10%	2.00%	2.00%

### データ分析②

検証方法①結果:シュート、枠内シュート、攻撃回数、パス、ボール支配率を説明変数としたときの回帰モデルが**決定係数0.514**となりより良いモデルであることを見出した。

検証方法②結果:他のチームと比べて**パス、枠内シュート、攻撃回数が多い**。\*また**ボール奪取回数はj2で1位**であった。

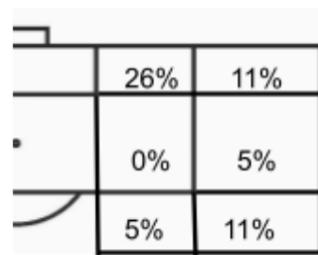


### データ分析により発見した仮説

パス、ボール奪取、攻撃回数を多くし、クロスを起点としたパターン率を高めると、得点数を高めることができる

### 解析1

結果:攻撃側がゴールに向かった場合の右からのクロスの上となる位置を析出した結果以下の図のようになった。



結果よりPA内からのクロスが有効であることが分かった。左上の割合が最も多いのは予想していたが右上が11%と意外に多かったことに着目する。

解析2結果:ボールを奪ってからそのままの流れでクロスを上上げることで相手のマークが外れやすい。またカットバックのパスはマークが外れやすい。

### ●データ解析事例 2022年第16節大分トリニータ戦1点目



## 4. 考察

クロスから得点の確率を上げるためには、クロスを上上げる前に相手からボールを奪い、パスをつないでゴール前にスペースをあけることが大切である。ボールを奪ってからの流れの攻撃では相手は攻撃から守備への切り替えをする必要がありその中でパスを繋ぐことで、守備側の選手の意識がボール方向に向き、ゴール前の選手がフリーになりやすいのでクロスボールが有効になるといえる。

### 結論ボール奪取×パス×クロス→得点増加！ 今後の展望

得点数を向上させるための分析では、得点直前のプレーだけに着目するだけになってしまう。しかし、プレイヤーはその直前の部分ではなく、本質的な得点に関わる要素を見つける必要がある。また、ロアッソ熊本は入場者が少なく駐車場の問題など改善すべき課題がいくつかある。より多くの人にスタジアムに来てもらうには何が必要か別の観点から検証したいと思う。

